

いたち川の魚類

著者	南部 久男
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	10
ページ	77-82
発行年	1987-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=530

いたち川の魚類*

南部 久男
富山市科学文化センター

Fishes of the Stream Itachigawa

Hisao NAMBU
Toyama Science Museum

Seventeen species of fishes were collected in the Stream Itachigawa. The most conspicuous fishes were *Zacco platypus*, *Leuciscus hakonensis* and *Rhinogobius brunneus*.

It is noteworthy that *Pungitius sinensis* was collected in the river of urban area.

1. 調査地点及び方法

調査地点は共通の地点に概ね準じたが, St. 4 と St.5 の中間地点富山市大泉北町地内水神橋上流部には, 魚類の生息に適していると思われるいたち川最大の堰があり, 魚類の調査地点に加えた (St.4')。調査日は1986年4月16日, 7月31日及び8月1日, 10月17日である。夏の調査は全調査地点で行ったが (St.9を除く), 春と秋の調査は St.3, 4, 4', 5, 6, 8, 10 の7地点で行った。魚類の採集は一辺の網目10mm及び15mmの投網及びタモ網を用いて行った。また, 目撃した魚種も記録した。調査地点の状況に応じ, 投網は5-10回, タモ網は30回程度使用した。なお, 魚類の採集には, 富山県より, 特別採捕許可を受けた。

種の同定は主に宮地他 (1976) の原色淡水魚類図鑑を参照し, 学名についても本図鑑に準じた。

2. 調査結果

確認された魚類は次の8科20種である (便宜上亜種を1種と数える)。各地点の調査結果は表1に, 神通川水系の魚類相との比較を表2に示す。

サケ科 Salmonidae

1. ヤマメ *Salmo masou masou* BREVOORT
2. アマゴ *Salmo masou macrostomus* GÜNTHER

キュウリウオ科 Osmeridae

3. アユ *Plecoglossus altivelis* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

コイ科 Cyprinidae

4. ウグイ *Leuciscus hakonensis* GÜNTHER
5. タカハヤ *Phoxinus lagowski* DYBOWSKI f. *oxycephalus* (SAUVAGE & DABRY)
6. オイカワ *Zacco platypus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
7. タモロコ *Gnathopogon elognatus elognatus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
8. モツゴ *Pseudorasbora parva* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
- *9. コイ・ニシキゴイ *Cyprinus carpio* LINNAEUS
10. キンプナ *Carassius carassius buergeri* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
11. ギンプナ *Carassius gibelio langsdorfi* (VALENCIENNES)

ドジョウ科 Cobitidae

*富山市科学文化センター研究業績第63号

12. ドジョウ *Cobitis anguillicaudatus* CANTOR
 13. シマドジョウ *Cobitis biwae* JORDAN et SNYDER
 トゲウオ科 Gasterostenidae
 14. トミヨ *Pungitus sinensis* (GUICHENOT)
 カジカ科 Cottidae
 15. カジカ *Cottus hilgendorfi* STEINDACHNER et DÖDERLEIN
 *16. ボラ科 Mugilidae の一種
 ハゼ科 Gobiidae
 17. ヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
 18. カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* (MIZUNO)
 19. アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes* (HILGENDORF)
 20. ウキゴリ *Chaenogobius annularis* GILL

(*は目撃)

1) 各調査地点の魚類

St.1 (馬瀬口)

夏の調査で5回投網を使用したが生類は採集できなかった。三面がコンクリートの用水である。

St.2 (北陸自動車道南)

夏の調査で投網4回、タモ網約50回使用したが、カジカ1個体のみが確認されたにすぎない。本種が周年生息しているかどうかは不明である。三面がコンクリートの用水であるが、岸より落ちた土砂や礫が所々堆積する。

St.3 (太田橋)

タカハヤ、ドジョウ、シマドジョウの3種が確認された。流れは速いが、両岸にヨシが繁茂し、ヨシの根元が水辺に張り出し流れの比較的緩くなった部分にタカハヤが多数認められた。夏の調査で腹部の大きい卵を持った

表1 いたち川における各調査地点の魚類

調査地点	1	2	3	4	4*	5	6	7	8	9	10
魚種名	馬瀬口	北陸自動車道南	太田橋	清流橋	水神橋	辰泉橋	今木橋	八田橋	四つ屋橋	興人橋	興人水路橋
ヤマメ					1						
アマゴ				3							
アユ					1, 2	4	2	1	2, 1		
ウグイ					5, 15	1	31, 2, 15		1, 1, 3		
タカハヤ			22, 103, 53	9, 7	1				3		
オイカワ					20, 57	5, 11, 38	33, 7, 11	4			
*コイ・ニシキゴイ							1, 3, 1				
キンブナ					2						
ギンブナ					1		1				
タモロコ					1						
モツゴ							1				
ドジョウ			1	1	2, 1, 1		2				
シマドジョウ			4, 2	3, 1	3, 1	1					
トミヨ							1	2	3, 2		
カジカ		1									
*ボラ科の一種									5		
ヨシノボリ					6, 1, 1	3, 5, 5	3, 16		1, 4, 12		1, 1
カワヨシノボリ					1						
アシシロハゼ											1
ウキゴリ					1	1		1			
種数	0	1	3	4	13	6	9	4	6	—	2

*目撃

いたち川の魚類

雌や、腹部を押すと精液の雄のタカハヤが認められた。

St.4 (清流橋)

アマゴ、タカハヤ、ドジョウ、シマドジョウの4種が認められた。バイカモの間でタカハヤやドジョウ類が少数認められた。調査は堰より上流側で行ったが、高さ約1.4mの堰のため魚類がこの堰を越えて遡上することは不可能と考えられる。

St.4" (水神橋)

今回の調査地点中最も多い13種の魚類が確認された。堰の直下の深さ約1.5mの淵とそれに続く瀬が魚類の生息に適した環境をつくっていると考えられる。オイカワが最も多く、次いでウグイが多く認められた。アユは夏と秋の調査で認められた。アユはこの地点より下流で採集された。ヨシノボリが瀬に、ヤマメとフナ類が淵に少数認められた。ヤマメは3回の調査を通じ1個体のみ確認された。堰の上流部の岸辺よりタモロコ1個体が採集された。ウキゴリは汽水型であった。

表2 神通川水系(富山県側)の魚類

科名	魚種名	いたち川	神通川本流 (富山県側)	神通川支流 (いたち川除く)
ヤツメウナギ科	カワヤツメ		●	●
サケ科	イワナ			●
	*ニジマス			●
	サクラマス・ヤマメ	●	●	●
	*アマゴ	●	●	●
キュウリウオ科	アユ	●	●	●
コイ科	ウグイ	●	●	●
	マルタウグイ		●	
	アブラハヤ		●	●
	タカハヤ	●	●	●
	*カワムツ		●	●
	*オイカワ	●	●	●
	*ワタカ		●	●
	カマツカ		●	●
	ヒガイ		●	
	タモロコ	●	●	●
	モツゴ	●	●	●
	ニシキゴイ		●	●
	コイ・*ニシキゴイ	○	●	●
	キンブナ	●	●	●
*ゲンゴロウブナ		●	●	
ギンブナ	●	●	●	
*タイリクバラタナゴ			●	
タビラ			●	
ドジョウ科	ドジョウ	●	●	●
	アジメドジョウ			●
	シマドジョウ	●	●	●
ギギ科	アカザ			●
ナマス科	マナマス		●	●
トゲウオ科	イトヨ		●	
	トミヨ	●	●	●
カジカ科	アユカケ		●	
	カンキョウカジカ		●	
	カジカ	●		●
ボラ科	メナダ	?○	●	
ハゼ科	チチブ		●	●
	ゴクラクハゼ		●	
	ヨシノボリ	●	●	●
	カワヨシノボリ	●	●	●
	マハゼ		●	
	アシシロハゼ	●	●	●
ウキゴリ	●	●	●	
種数	43	20	35	25

*移入種, ○目撃

St.5 (辰泉橋)

アユ, ウグイ, オイカワ, シマドジョウ, ヨシノボリ, ウキゴリ(淡水型)の6種が認められた。下流部は護岸工事が完了し, 上流部は護岸工事中であった。調査は上流部の護岸工事の行われているやや下流の瀬で行った。

St.6 (今木橋)

松川と合流し, 左岸側が流れが速く, 右岸側は砂泥が堆積し左岸側に比べやや浅く, 流れもやや速い。9種が確認され, 3回の調査を通じウグイ, オイカワが多く認められた。春から夏にかけて護岸工事が行なわれており, 工事のため出来た淀みでギンブナが採集され, コイ・ニシキゴイが目撃された。夏の調査で, 右岸側の浅瀬でトミヨ1個体が採集された。

St.7 (八田橋)

アユ, オイカワ, トミヨ, ウキゴリ(汽水型)の4種が確認された。トミヨは夏の調査で, 左岸に接して堆積した長さ約2.5m, 幅約1.5mの土砂に, ヤナギモ, コカナダモ, エビモが生える部分から確認された。水草の生える部分の流速は毎秒約10cm, 周辺では毎秒約30cmであった。7個体のトミヨの全長はそれぞれ4.2, 4.2, 4.5, 4.6, 4.7, 5.0, 5.0cmであった。

St.8 (四つ屋橋)

アユ、ウグイ、タカハヤ、トミヨ、ヨシノボリ、ボラ科の一種の6種が確認された。トミヨは右岸側の土砂が堆積しエビモ、コカナダモの生える部分より確認された。水草の生える部分の流速は毎秒約50cmであった。

St.9 (興人橋)

調査せず。

St.10 (興人水路橋)

岸辺よりヨシノボリとアシシロハゼが少数確認された。神通川との合流点付近の水底にはへどろ状の泥が堆積する。両岸が急で水深も深く十分な調査は行えなかった。

以上の結果より、St.1-2は用水で魚類の生息環境としては不相当であり、魚類はほとんどみられない。St.3は川幅は狭く流れも速いが、護岸工事が行われず、両岸にヨシが繁茂し特定の魚種、タカハヤが多く生息する。St.4-8は瀬が大部分をしめ、オイカワ、ウグイ、アユなどの遊泳魚や底生魚であるヨシノボリ、ウキゴリなどのハゼ科魚類が生息し、サケ科魚類がわずかに見られる。所々わずかに存在する淵や橋脚の周辺の淀みにはフナ類がわずかにみられる。土砂が堆積し水草の生える部分にはトミヨがいくらか生息する。流れの緩い部分に生息するタモロコ、モツゴが僅かに見られる。水辺の砂泥の部分にはドジョウ類が僅かにみられる。St.3-9はBb型の河川形態であるが神通川との合流点であるSt.10は、いたち川で唯一のBc型の河川形態であり、回遊魚の通過地点の役割を果していると考えられる。また、いたち川では、河川工事がいたるところで行われ、川の形態が単調になっている。

今回の調査で、トミヨの生息が確認された。トミヨは富山県内では黒部川扇状地扇端部、庄川扇状地扇端部、小矢部川流域の湧水の出る場所かその下流に生息するが、土地改良事業に伴い、トミヨの生息域が破壊されトミヨ

の絶滅した所が多いことが報告されている(富山県, 1978)。いたち川のような30万都市の市街地を流れる河川に生息することは特筆すべきと考えられる。

2) 神通川水系の魚類相との比較 (表2)

いたち川は富山県で最も大きな神通川水系の小さな1支流である。神通川水系(富山県側)の魚類の報告にはまとまったものとしては田中他(1976, 1978)、富山県(1979)があり、数種の記録では、田中、宮崎(1976)、南部(1984)等がある。岐阜県側を除く神通川本流では計11科35種、井田川、熊野川等の支流では10科25種、神通川水系全体では11科42種の記録がある。神通川水系でいたち川だけに生息する魚類はほとんどいないが(今回の調査で、神通川といたち川の合流点でアシシロハゼが神通川水系では初めて確認された。)、いたち川以外の神通川水系に生息し、今回の調査でいたち川で確認されなかった魚類には、カワヤツメ、イワナ、ニジマス、サケ、マルタウグイ、アブラハヤ、カワムツ、ワタカ、カマツカ、ヒガイ、ニゴイ、ゲンゴロウブナ、タイリクバラタナゴ、タビラ、アジメドジョウ、アカザ、マナマズ、イトヨ、アユカケ、カンキョウカジカ、チチブ、ゴクラクハゼ、マハゼがあげられる。

3) いたち川の移入魚

確認された魚類のうち、確実な移入魚はアマゴ、オイカワ、コイ・ニシキゴイ、の3種である。

アマゴが富山県で初めて報告されたのは1976年(田中他)と考えられ、具体的な生息地点は示されていないが、『富山県内各河川の上流域に岐阜県側より稚魚が移入され、放流されヤマメと入れ替わりつつある』という記述がある。その後、庄川、片貝川(田中他, 1978)、黒部川(富山県, 1979)で記録されて

いる。角（1983）は富山県のアマゴの侵入経路を、1.ヤマメの放流の際にアマゴが混入、2.遊漁者が釣り用に放流、と考えている。いたち川における移入経路は不明である。なお、降海アマゴは富山湾沿岸のほぼ全域でみられ、遡上アマゴは神通川、角川、片貝川で確認されている（角，1985）。角（1983，1985）は、アマゴがサクラマスに及ぼす影響として、稚・幼魚の餌が競合すること、交雑によりサクラマスが小型化する可能性があることを指摘し、サクラマスの保護、増大を行うためには、アマゴの放流をくいとめ、富山県の河川ではアマゴの放流を中止すべきであるとのべている。

今回の調査で多く確認されたオイカワは、富山県内には、昭和9年（1934年）頃琵琶湖よりアユの稚魚とともに入ってきたと考えられ（山下，1937）、現在では富山県西部を中心に殆どの河川に生息する（田中他，1978）。山下の神通川のオイカワの記述を引用すると、『昭和9年（1934年）婦負郡黒瀬谷村に面する神通川に（現在の沢野町黒瀬谷神通第三ダム下流と思われる）採集を試みた際、非常に多くの本種が繁殖しているのを見て一驚した。折から投網を打っていた漁師に聞いてみると、この魚は数年前には全然いなかった。』とある。神通川はこの頃は現在の松川と松川に続くいたち川を流れており、この頃よりいたち川に侵入していた可能性がある。重杉（1955）の神通川誌によれば、大正6年（1917年）より、アユのふか放流数が表に上げられ、『大正15年度（1926年）から琵琶湖産のアユのふかに併せて稚魚の放流を計画し——』との記述がある。なお、神通川では近年神通川産及び琵琶湖産のアユが毎年放流されている（富山漁業協同組合談）。富山県水産業の動き（1983，1984，1985，1986）によれば、昭和56年度から同59年度の神通川におけるアユの漁獲量はそれぞれ133，146，133，149tである。

コイ・ニシキゴイは、昭和46年度（1971年）より同61年度（1986年）にかけ神通川をきれいにする会、神通川ライオンズクラブ等により、松川の華明橋付近で合計159,850匹が放流され、昭和55年度より1日1回餌が与えられている（富山市観光課談）。松川との合流点下流のいたち川において大きく成長したコイ・ニシキゴイがよくみられる。

4) 神通川のサケ、マス類の生息状況

今回の調査では、いたち川においてサクラマス、サケの遡上は確認できなかったが、富山漁業協同組合によれば、いたち川ではサケの遡上は聞かないが、マスは時々遡上しているのを聞くことがあるとのことである。なお、神通川におけるサケ、マス類の漁獲及び放流の概要は次の通りである。

富山県水産業の動き（1983，1984，1985，1986）によれば神通川におけるサケの漁獲量は、昭和56，57，58，59年度でそれぞれ16，53，45，44t，サクラマスは3，4，5，4t，ヤマメは各年度とも1tである。

富山県水産試験場（1984）によれば、昭和50年から58年度の9年間（10月－12月）の雌雄合わせたサケの親魚遡上量は、それぞれの年度で7100，7717，6011，4089，10248，6130，3440，7179，9353尾である。10月上旬より遡上がみられ最盛期は11月，12月下旬にはほとんどみられない。昭和54年度から57年度にかけてのサケ稚魚放流数はそれぞれ10561，11171，9050，10190（単位千）尾である。なお、重杉（1955）の神通川誌には、『明治16年（1883年）地元の先覚者生田清堅によって、すでに県下初の鮭の孵化が試みられ、成功した。』との記述がある。

サクラマスの稚魚放流数は、昭和56，57，58，59の各年度でそれぞれ206，301，700，713（単位千）尾である（富山県水産漁港課収集資料）。重杉（1955）によれば、神通川では昭和3年（1928年）からのマスの稚魚放流数が表に上げ

られている。

謝 辞

富山大学田中晋教授には富山県の淡水魚について、富山県のサケ・マス類の文献、資料については富山県水産試験場土井捷三郎氏、同栽培漁業センター角祐二氏、いたち川のサケ・マス類の遡上状況等については富山県漁業協同組合長出島俊一氏、同谷清雄氏、河川の用語については富山県立技術短大高橋剛一郎氏に、コイの放流状況については富山市観光課に色々と御教示頂きました。厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 北陸農政局富山統計情報事務所, 1983, 1984, 1985, 1986. 富山県水産業の動き (昭和56年, 57年, 58年, 59年).
- 宮地伝三郎, 川那部浩哉, 水野信彦, 1976. 原色日本淡水魚類図鑑. 保育社. 大阪. pp. 426, pls.56.
- 南部久男, 1984. 富山県の淡水魚3種 (カンキョウカジカ, カジカ, ゴクラクハゼ)の記録. 富山市科学文化センター研究報告, 6: 95-96, pl. 1.
- 重杉俊雄, 1955. 神通川誌. 富山漁業協同組合. pp.271.
- 角 祐二, 1983. 富山県におけるサクラマスとアマゴについて. 富水試だより, 30: 5-7.
- 角 祐二, 1985. 富山県沿岸における降海アマゴについて. 富水試だより, 37: 6-8.
- 田中 晋, 宮崎重導, 1976. 富山県におけるウグイ及びマルタウグイの年成長について. 生理生態, 17 (1・2) 401-406.
- 田中 晋, 殿山美喜夫, 宮崎重導, 小林英俊, 水野正尚, 1976. 富山県における淡水魚類の分布. 富山大学教育学部紀要, 24: 195-206.

- 田中 晋, 殿山美喜夫, 宮崎重導, 小林英俊, 水野正尚, 1978. 富山県の淡水魚類. 富山県の陸水生物, 253-306, pls.7. 富山県.
- 富山県, 1978. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査動物分布報告書淡水魚, pp. 35.
- 富山県, 1979. 環境庁委託第2回自然環境保全基礎調査河川調査報告書, pp.69.
- 富山県水産試験場, 1984. 昭和54~58年度総括さけ・ます資源増大対策調査報告書, pp.111.
- 山下博三, 1937. 富山県の淡水魚略記. 富山高校博物同好会会誌, 3: 42-52.